

森林教育とは

森林教育

森林教育は多様な内容を含んでおり、「何が森林教育なのか？」をとらえることは容易ではありません。教育の対象は、森のようちえんなどでの幼児、学校教育での児童・生徒、社会教育での大人や高齢者など、あらゆる年齢層を含み、興味・関心の対象もさまざまです。

森林教育について、『森林教育』（2015）から概要を以下にまとめました。

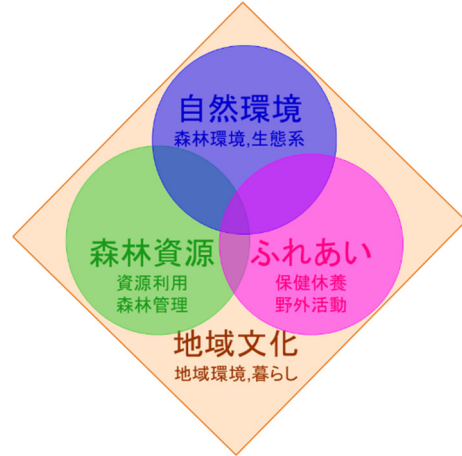


図 1-1 森林教育の内容の4要素
（大石・井上 2015）

・森林教育の目的

森林での直接的な体験を通じて、循環型資源を育む地域の自然環境である森林について知り、森林と関わる技能や態度、感性、社会性、課題解決力などを養い、これからの社会の形成者として、持続的な社会の文化を担う人材育成を目指した教育。

・森林教育を通じて学ぶべき内容

【森林の五原則】 多様性, 生命性, 生産性, 関係性, 有限性

【森林との関わりの五原則】 現実的, 地域的, 文化的, 科学的, 持続的

・森林教育の内容の4要素

森林資源: 資源利用, 森林管理

自然環境: 森林環境, 生態系

ふれあい: 保健休養, 野外活動

地域文化: 地域環境, 暮らし

これらの内容を含む森林教育活動には、多様な形態があり、これまでの活動事例としては40種類が挙げられています(7～8ページ参照)。

さらに、森林で体験活動を行うには、次の4つの要素についての検討が必要です。

・森林体験活動の要素

1) 場所(森林), 2) 指導者, 3) 学習者, 4) プログラム

【出典】大石・井上(2015)『森林教育』海青社

I では、森林教育に関する9つの教育プログラムを紹介します。II【資料編】では、これらの教育プログラムを実践した活動事例について紹介します。
(井上真理子)